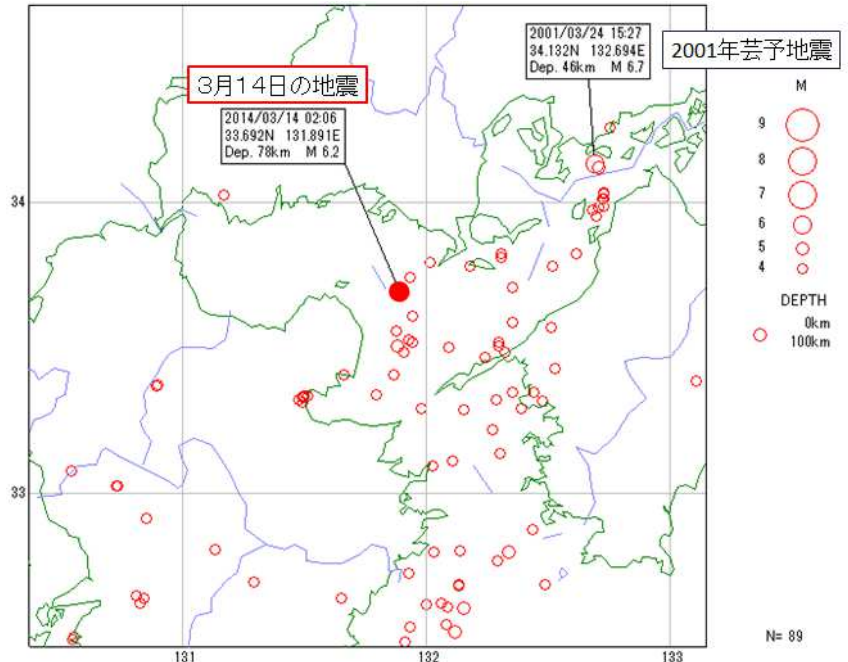


2014年3月14日の伊予灘の地震 (M:6.2)

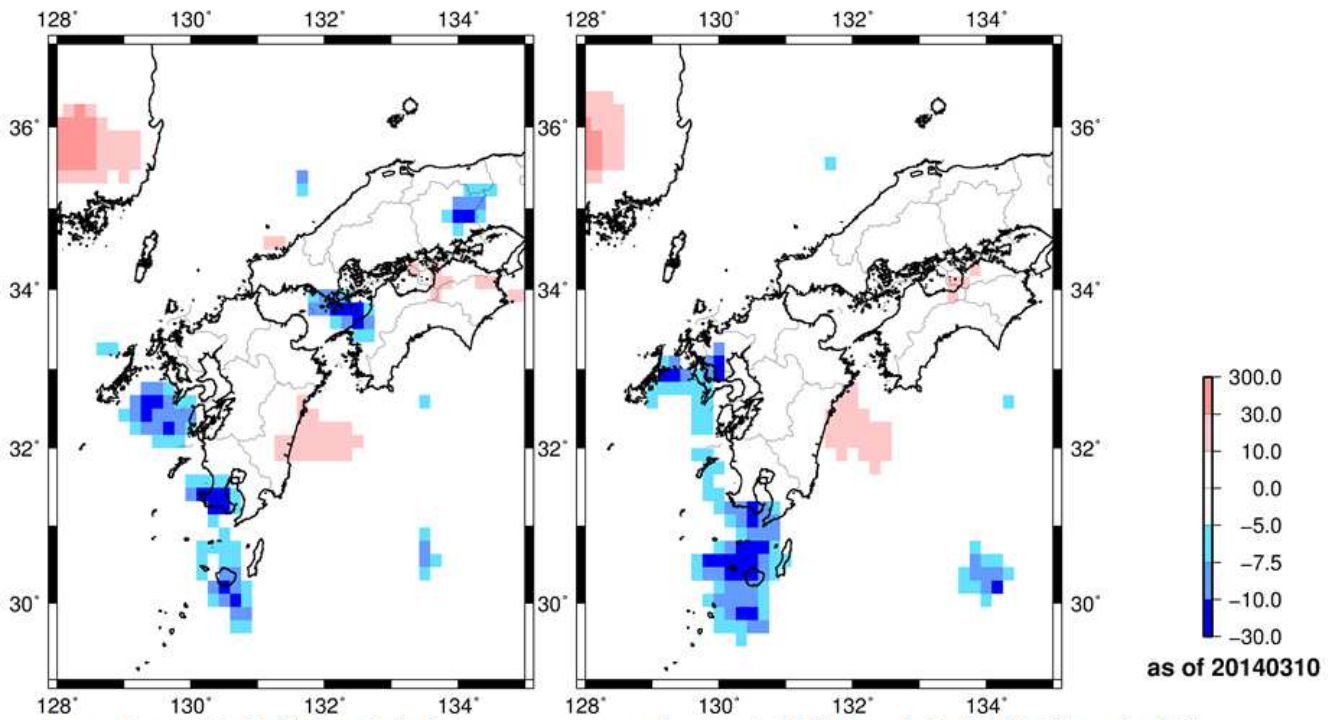
西日本で久しぶりに震度5強を観測した地震が14日未明に発生しました。この近辺ではこれまでも時々M6から6.5クラス(江戸時代にはM7クラスと推定される地震も数回発生)の地震が発生しています。一番最近では2001年に芸予地震(M6.7)が発生しています。

この地震に先行した異常(地下天気図の異常=地震活動静穏化)がどうであったか確認してみました。

その結果を下に示します。下の図の左側がM6クラスの地震について、経験的に異常が良く抽出できたパラメータです。確かに14日の地震の近くで、静穏化が見られます。ただ普段ニュースレターとして提供しているM7クラスの地震活動を最も良く反映すると考えている解析パラメータ(右側の図)では異常は観測されていませんでした。



逆に現在九州地区で一番気がかりなのは、両方の図で同時に異常が出ている領域です。ただ比較的異常の領域が小さいので、まだ深刻ではないと考えています。

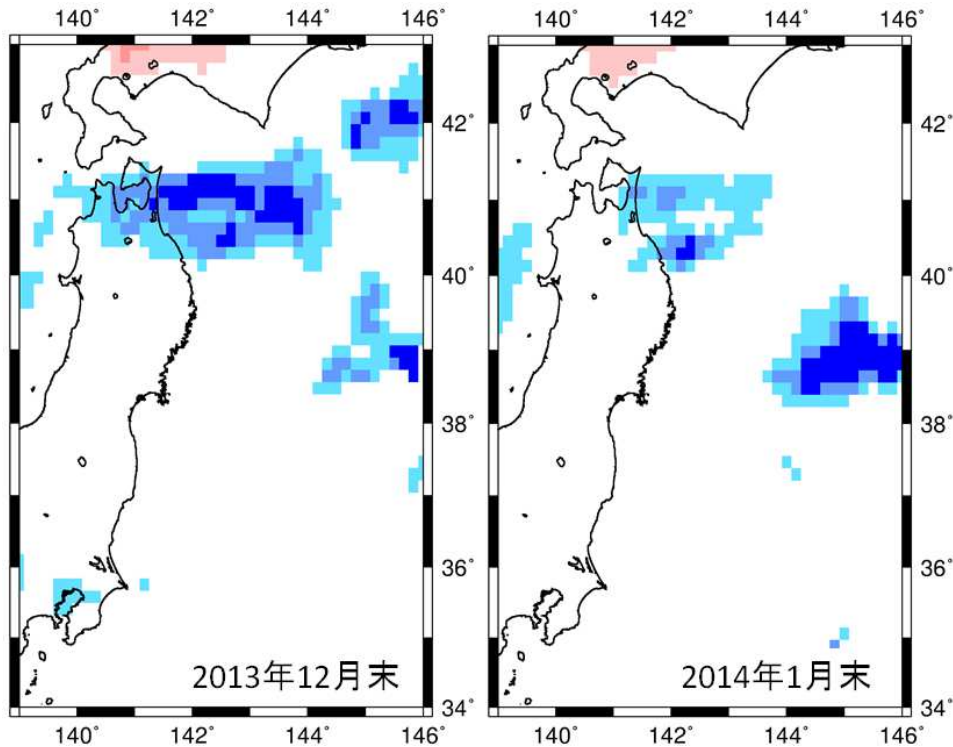


M6クラスを対象とした解析
(狭い地域(探査半径:小)で解析)

M7クラスを対象とした解析(通常の解析)
(M7クラスの活動を最も良く反映するパラメータ)

北海道・東北沖の異常

2013年10月26日に福島沖でアウターライズ地震が発生し、津波注意報が発令されてから、東北・北海道沖は通常の余震活動で推移しています。この東北・北海道沖の状況が少し変わってきました。



上の2枚は昨年12月末と今年の1月末の地下天気図です。岩手、青森沖に青色の領域（地震活動が過去と比べて低い地域：静穏化領域）が広がっていました。

右側の図は今年3月10日時点の地下天気図です。岩手沖の静穏化領域は残っていますが、青森沖の領域は消えています（地震活動が過去の平均レベルに戻った）。

今後しばらくは、青森沖（北海道沖）に注目です。

